

3

ナルニア国物語 2

ライオンと魔女と衣装だんす

C・S・ルイス

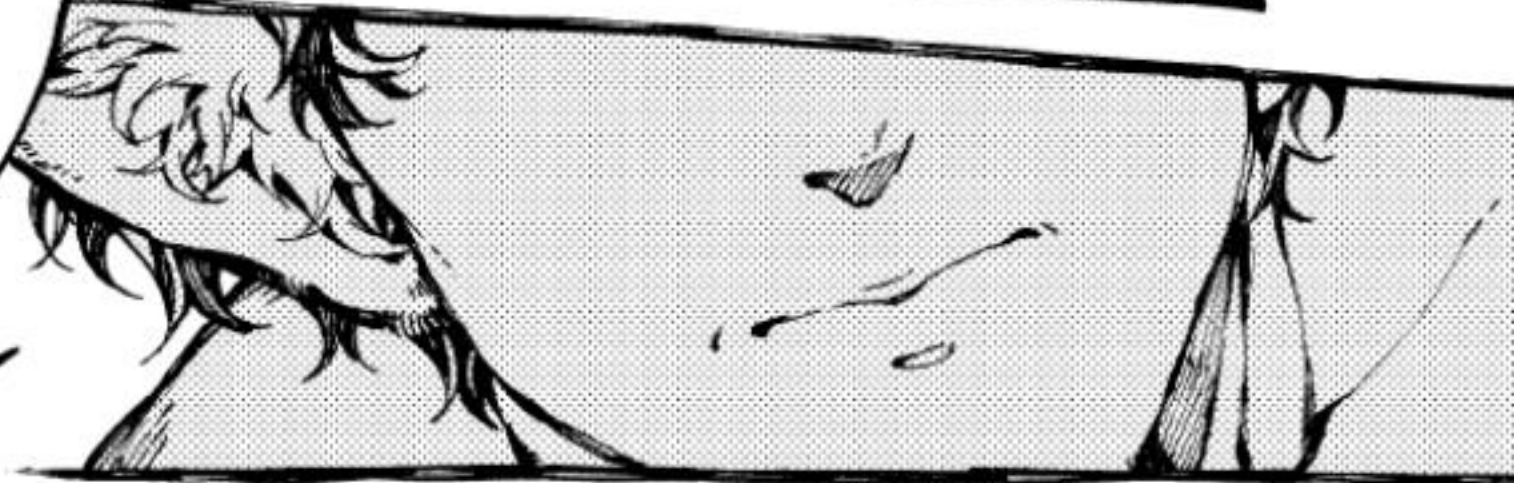
土屋京子・訳

玉樹庵・画

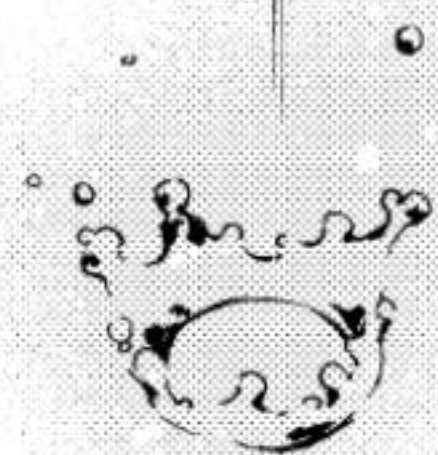
(光文社古典新訳文庫刊)

第3話 ルーシーが見たもの(後編)





ポッ











タムナス
さんは
ちつとも悪い
フオーンだとは
思わないわ



タムナスさんは
とってもいい
フオーンだと
思います

わたしが
会ったことのある中で
いちばん親切な
フオーンだわ



おう——

おお——



ほんとうのことを
知ったら

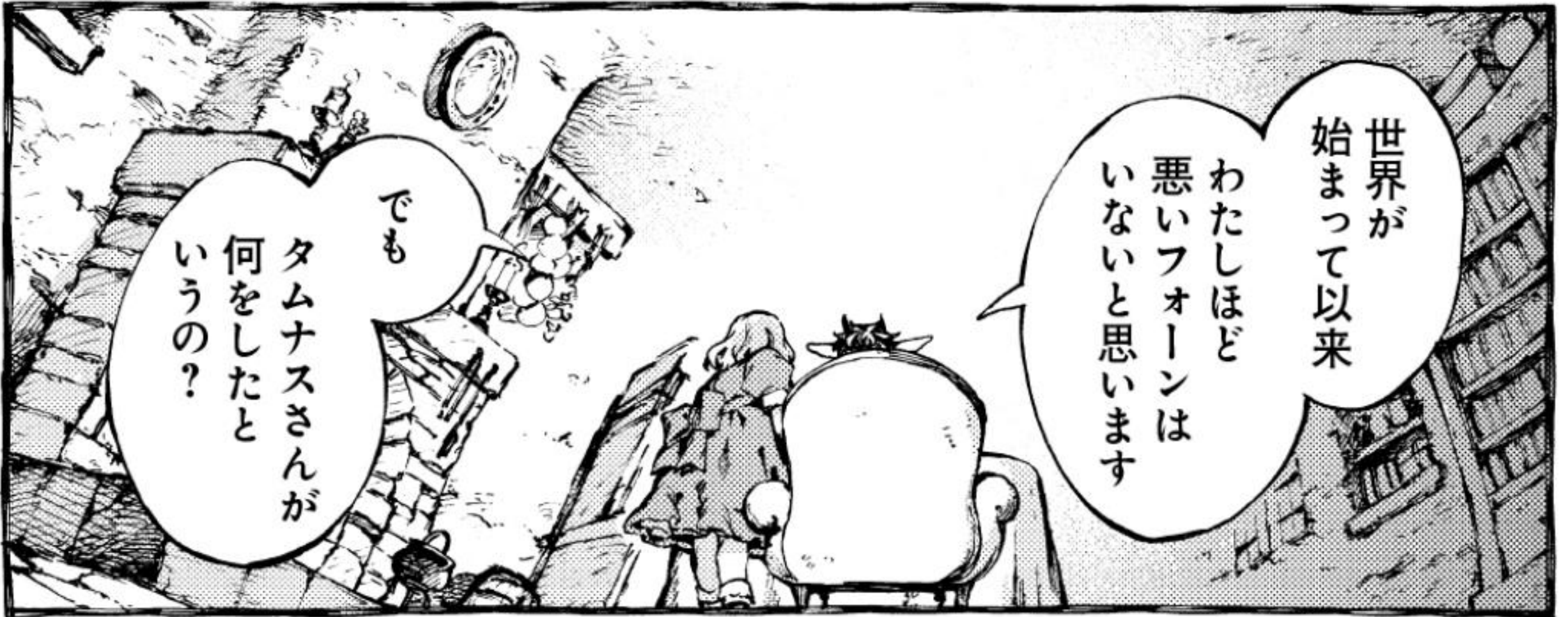
そんなこと
言わないでしょう

わたしは
悪いフオーン
なのです

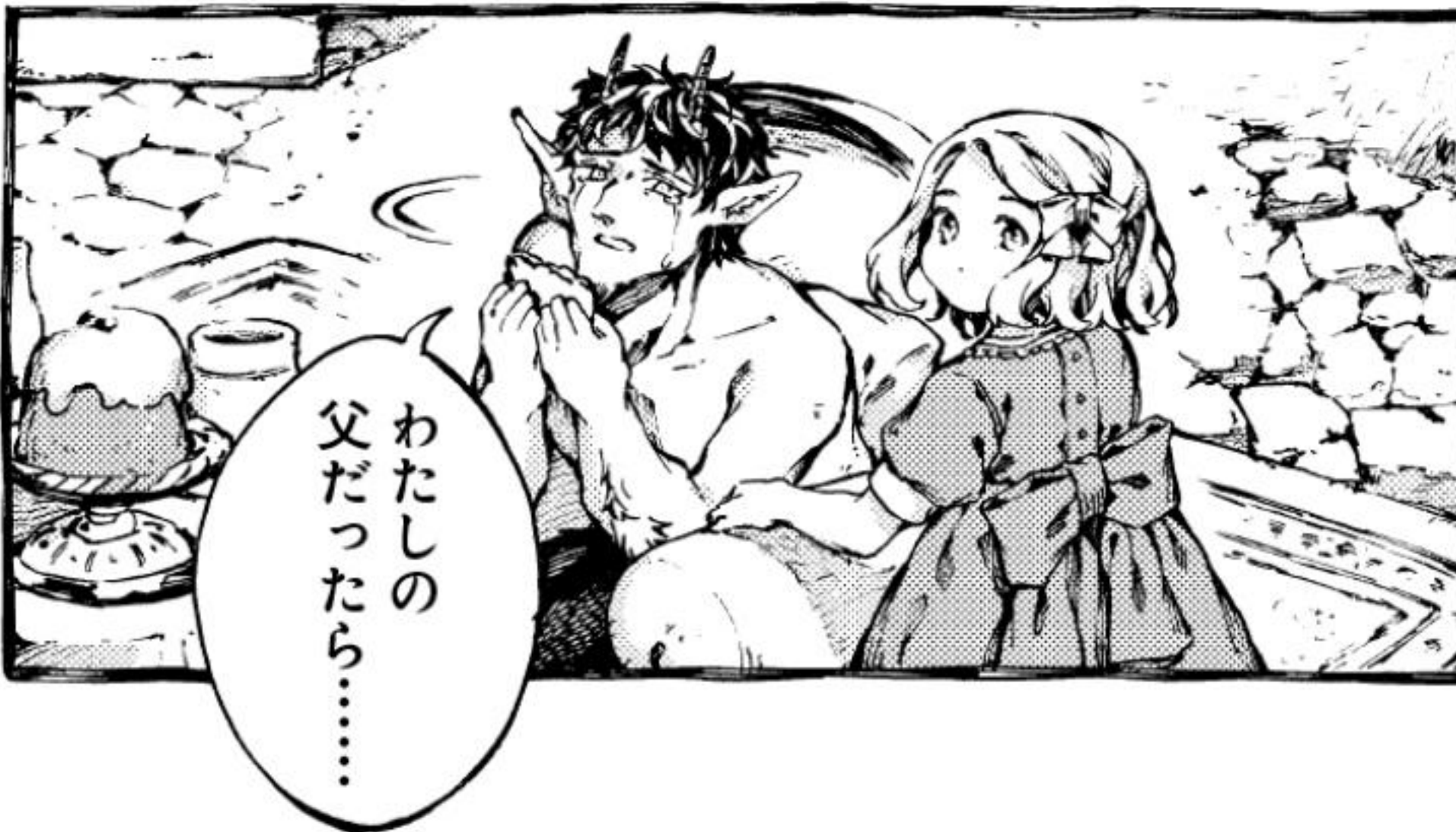


世界が
始まって以来
わたしほど
悪いフオーンは
いないと思います

でも
タムナスさんが
何をしたらと
いうの？



わたしの
父だったら……







白い魔女に
仕えるなんて……



……それがわたしの
正体なんです

わたしは白い魔女に
使われているんです



…白い魔女？

それって
誰ですか？







フォーンが森の中で
何の罪もない
いたいけな子どもと
出会う

ほんとうの目的は

その子を眠らせて
白い魔女に
引き渡すことなんです

その子は
フォーンに何ひとつ
悪さをした
わけでもないのに

フォーンは
親しげなふりをして
お茶に招いて
家に誘いこむ……



わたし

そういうことを
するフォーンに
見えませんか？



これは

わたしが以前に
やったことでは
ないんです

いまのいま

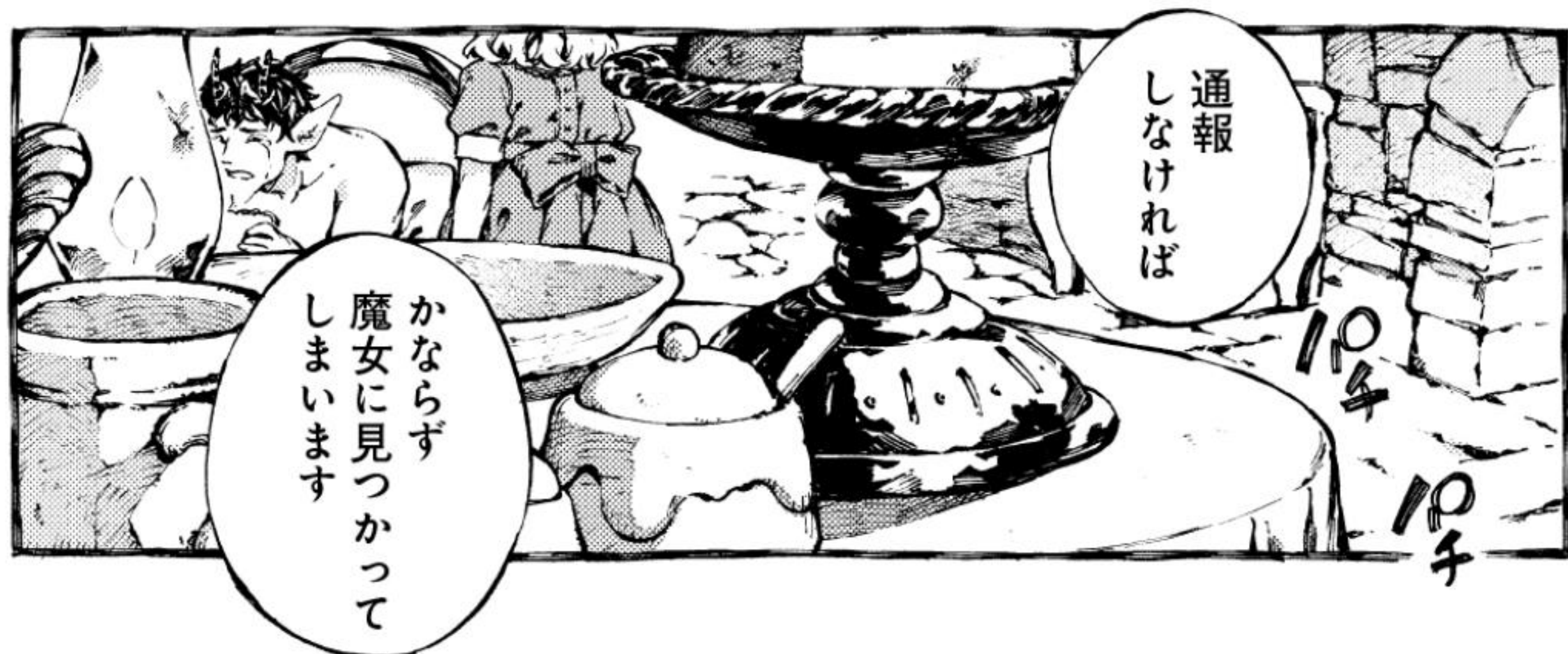
やっている
ことなんです

まさにいま

この瞬間に







見つかったら

しっぽを
ちよん切られて

角をのこぎりで
切られて

あごひげを
むしられて

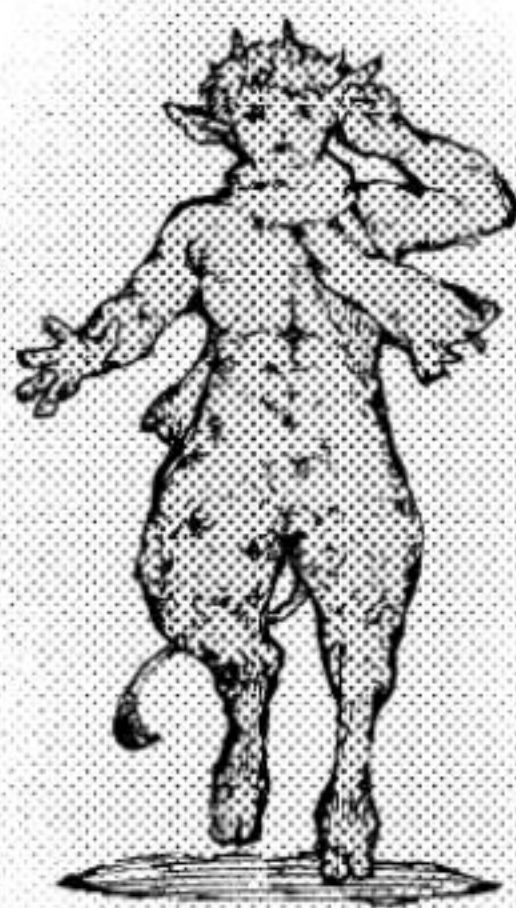
魔女の杖の
ひと振りで

わたしのこの美しい
二つ割れのひづめを

割れ目なしの
ひづめに
されてしまいます

みつともない
馬のひづめ
みたいに

魔女の怒りが
もっと大きければ

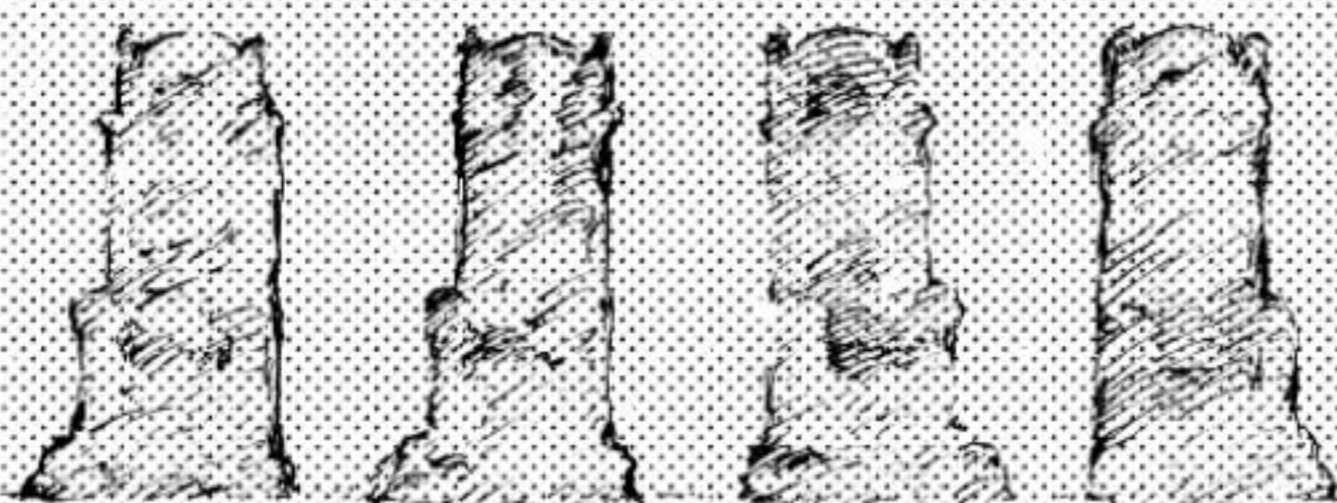


わたしは石に
されてしまいます



魔女の恐ろしい館に
並んでいる石像に
されてしまふんです

その呪いは



ケア・パラヴェルの
四つの王座に
四人の王たちが
就くまで

とけません



そんな日が
いつ来るのか……

そもそも
そんな日が
ほんとうに来るのか
どうかだって

わからないん
です

19キリ

194

19キ



もちろん

あなたを
魔女に渡すなんて
できっこありません

あなたと
知りあった
いまとなつては

いますぐ
出発
しましょう

街灯の
ところまで
お送りします

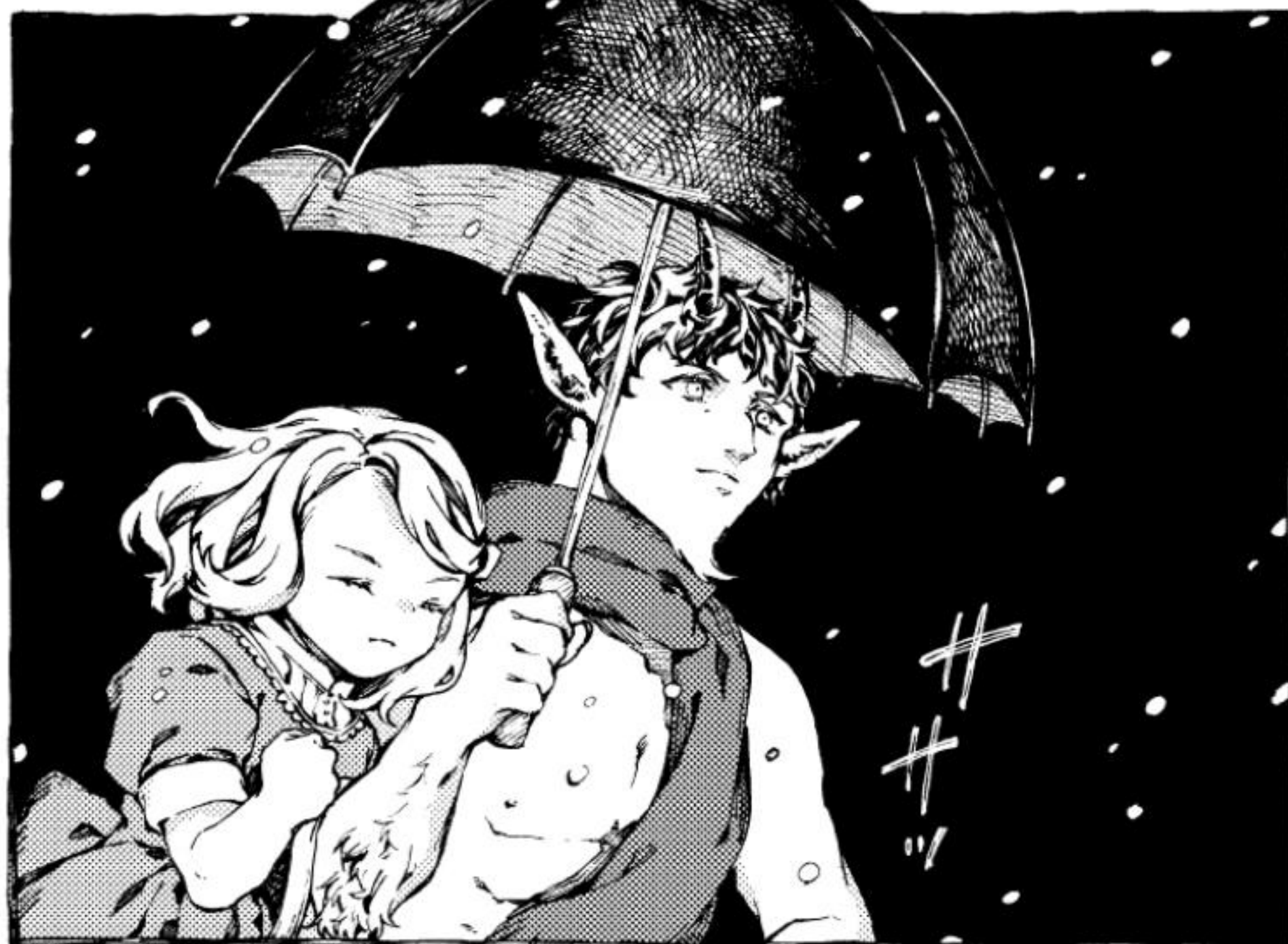
そこから
〈きやふま〉と
〈いっしょたんす〉
までの道は
わかりますね？

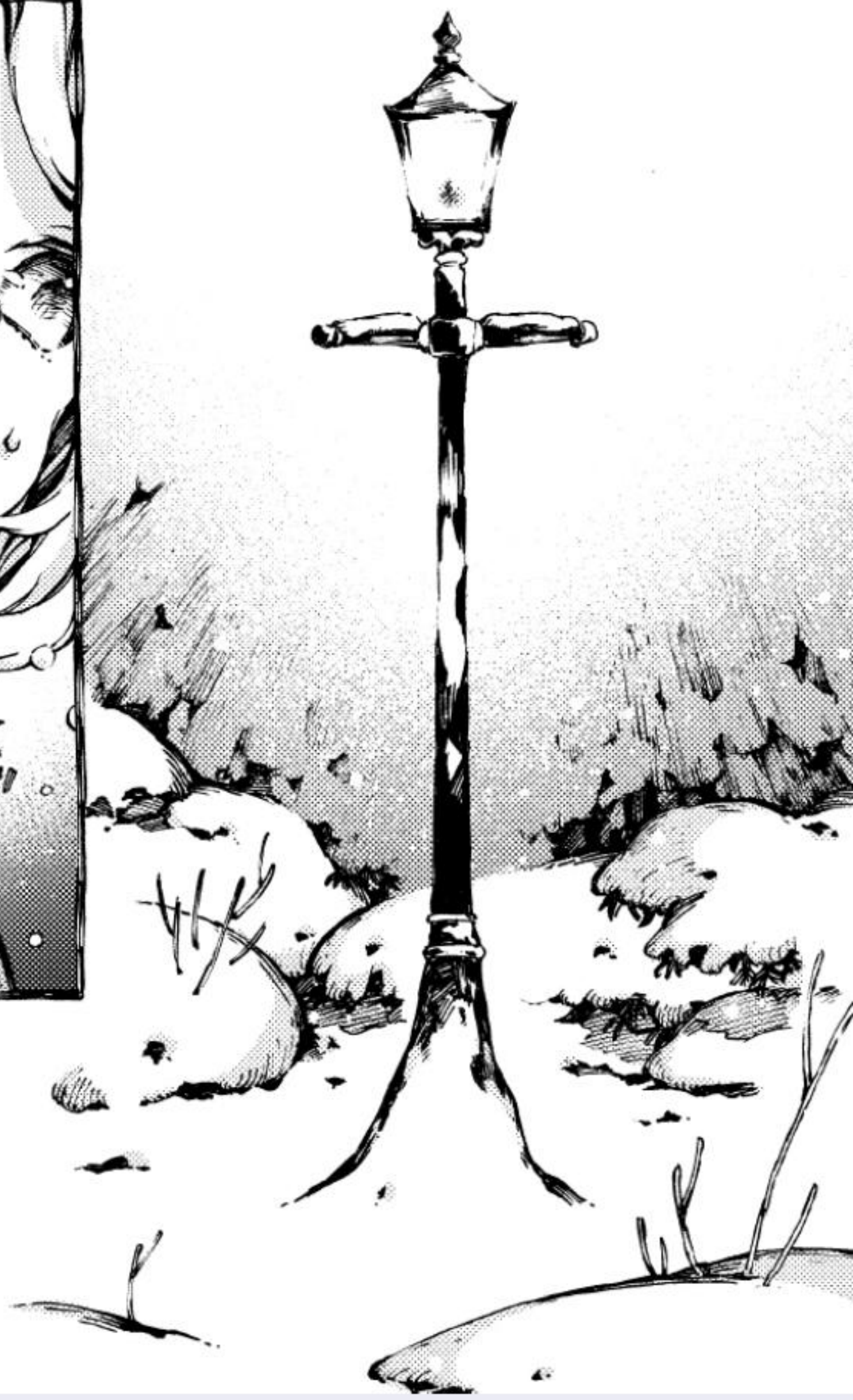
もちろん

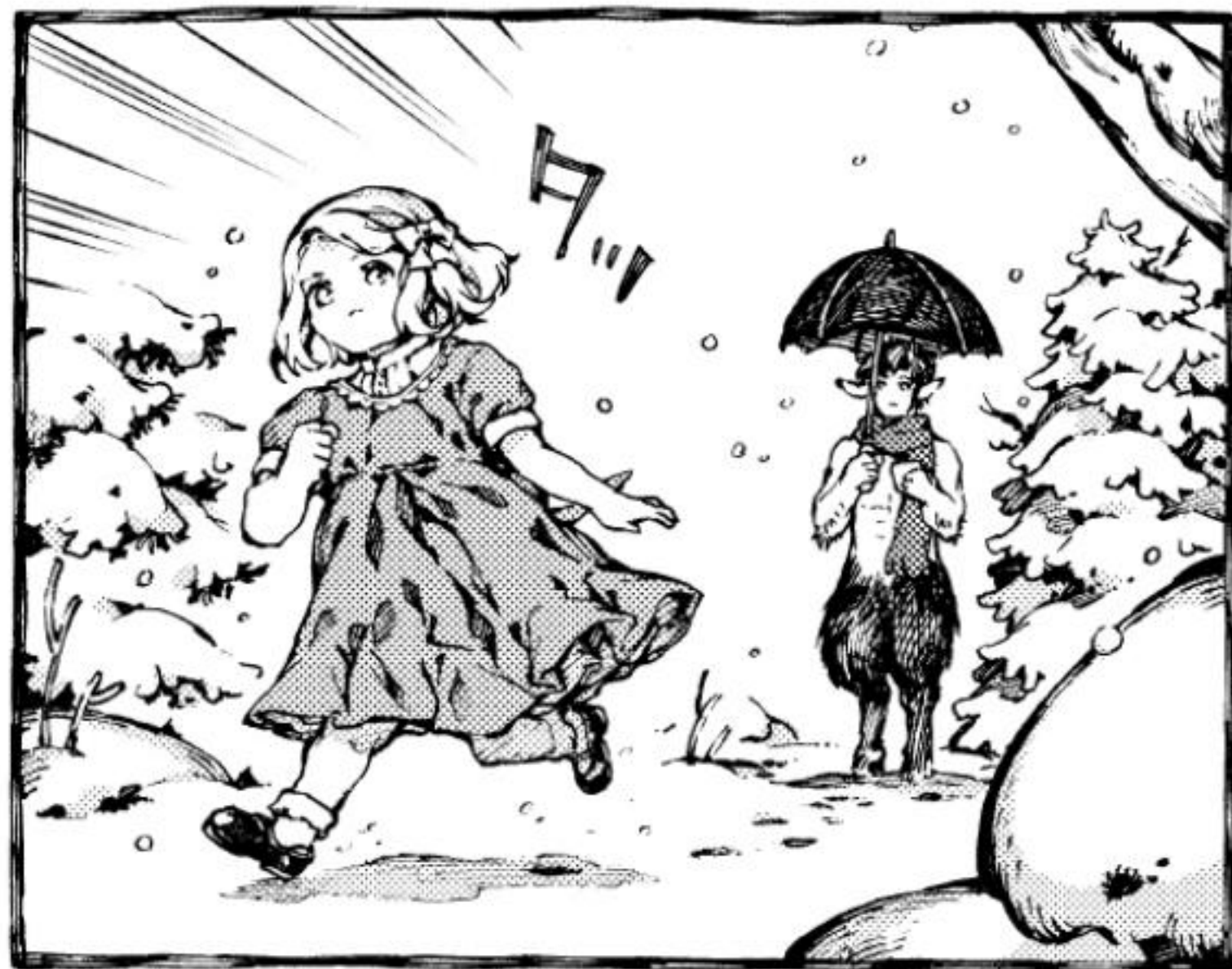
わかります

できるだけ
物音をたてずに
行かなくては
なりません



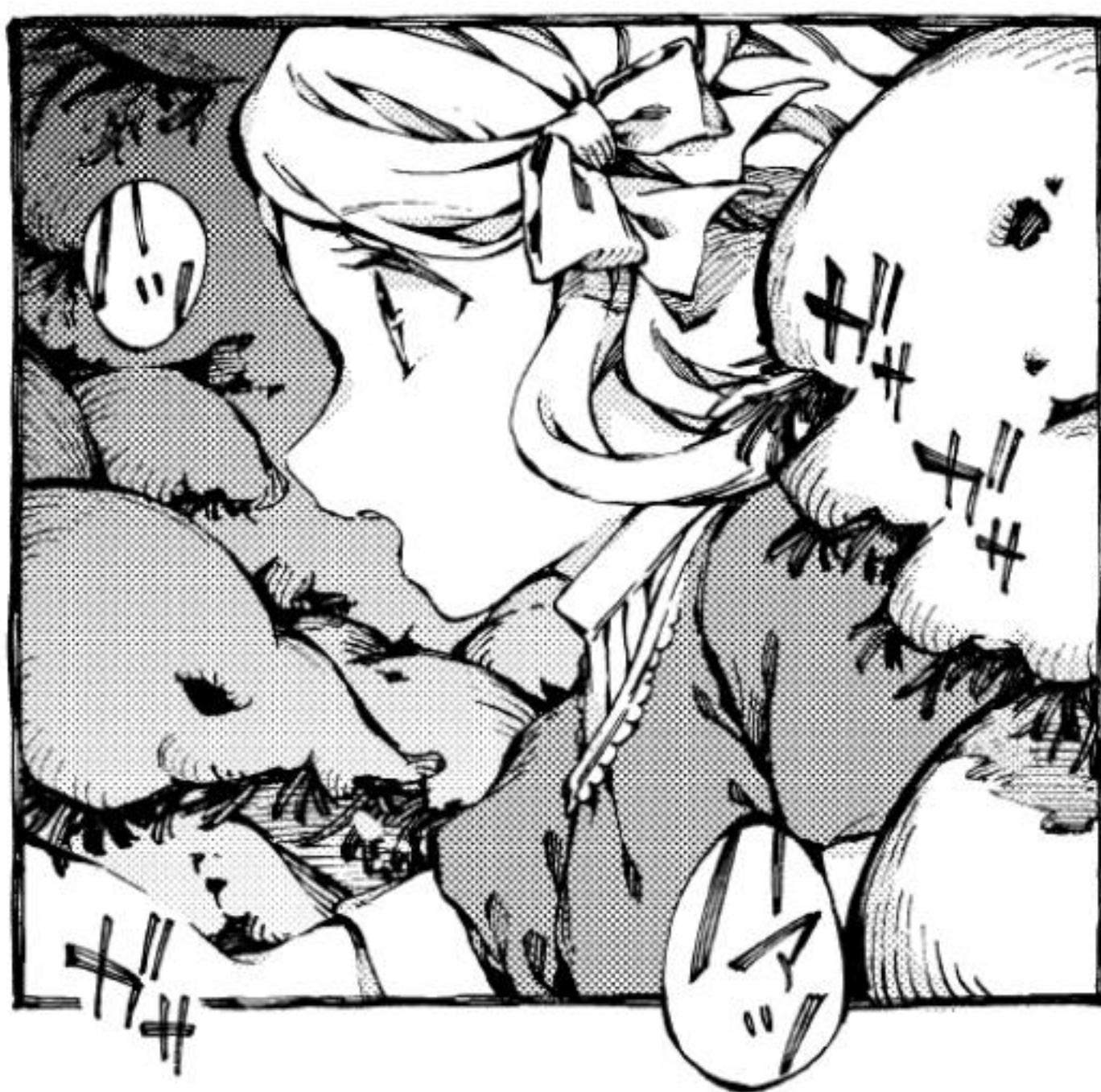


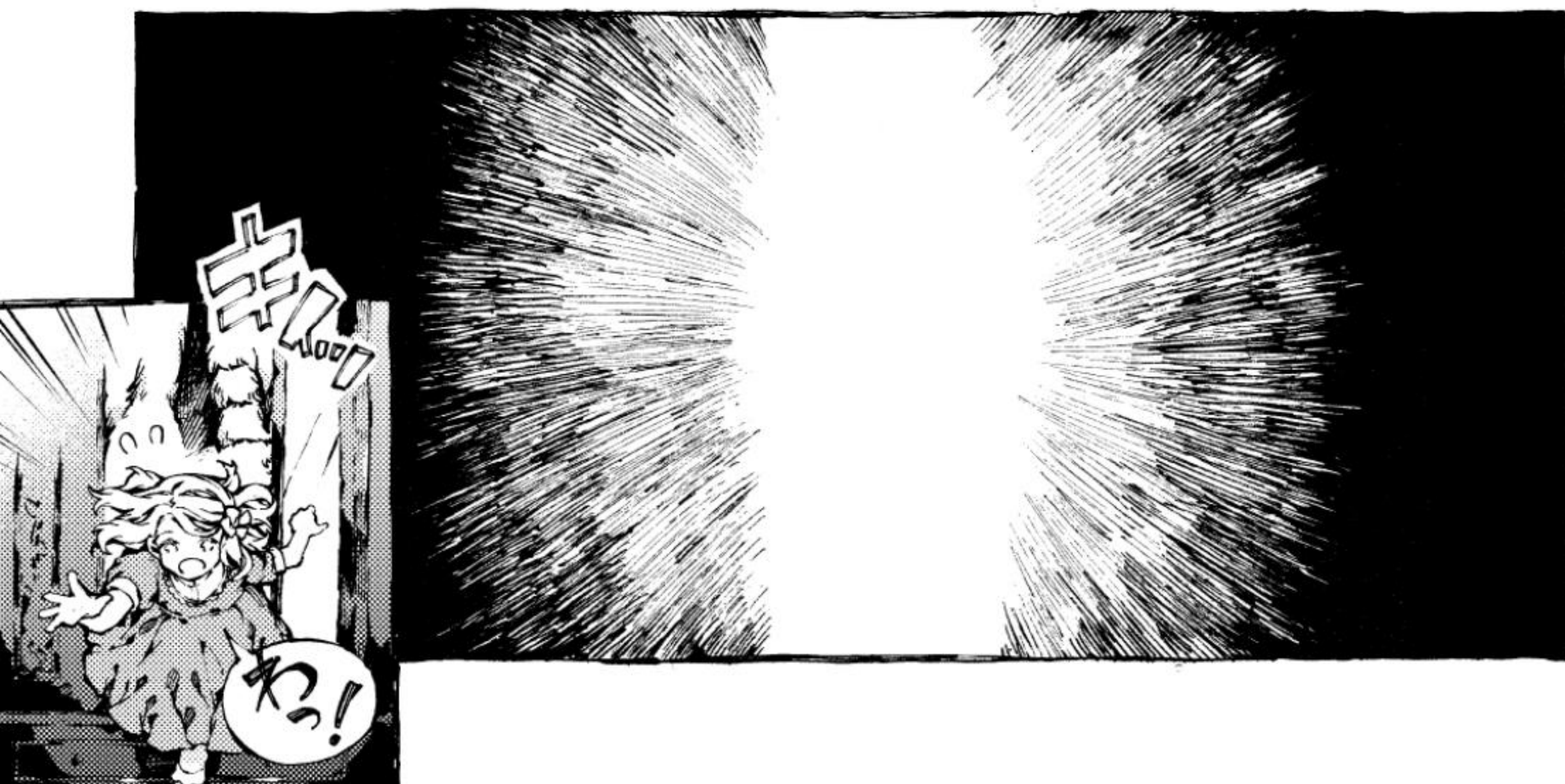




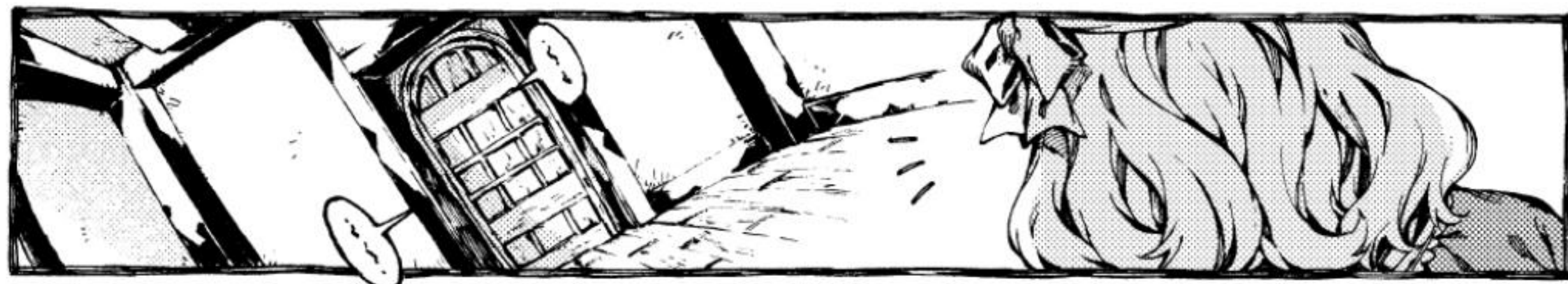














ここに
いるわよ！

もどってきたの

わたし

だいじょうぶ
だったのよ！